

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	0870102324		
法人名	株式会社 いっしん		
事業所名	グループホーム いっしん館内原		
所在地 (電話番号)	茨城県水戸市杉崎町195-1 (電話) 029-257-5580		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年6月19日	評価確定日	平成19年12月4日

【情報提供票より】(平成19年4月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 12人, 非常勤 2人, 常勤換算	14人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(但し入居2年目から)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,100 円

(4) 利用者の概要

利用者人数	17名	男性	7名	女性	10名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	8名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 79.4歳	最低	61歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田口同仁クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くには、大きなショッピングセンターがあり幹線道路も近い。周囲は田んぼが広がっており、時期になると田植えを行っている姿を眺められたりと、季節の移り変わりを感じられる場所である。利用者に対する職員の対応は優しく丁寧であり、その方の「最大の味方」でありたいと話されていた。年1回、他館と合同で温泉旅行へ出かけたり、外出や外食支援などを行っている。散歩時には、近所の方と挨拶を交わしたり、ホームの行事に招待したりと地域の方が気軽に立ち寄れるように働きかけをしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回要改善とされた項目に関して、家族との連絡体制の強化が図れるよう、ホーム便りの作成に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に、自己評価に取り組んでいる。自己評価を行うことで、色々と気づきがあったとの事。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの外部評価の公表や、ホームのこれからの行事の内容の報告などについて討議している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置したり、アンケートを行ったりと積極的に意見をもらうようにしているが、意見をなかなか言い出しにくい家族への配慮として、家族会を発足し発言の場の提供が望まれる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事に参加したり、そば打ち等のボランティアと交流したり、またホームの行事に招待したりと地域との交流が図れるよう努めているが、自治会に加入することで近隣とのつき合いがより深まることを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定、基本理念、決めごと十則を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に理念を確認している。理念を新人マニュアルに使っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加したり、ボランティアグループとの交流を図っている。中学生の職場体験も受け入れてる。	○	今後、自治会に加入することで近隣とのつき合いがより深まることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングで、問題の解決や対処方法を検討している。スタッフも評価の意義を理解されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や利用者の家族などが集まり会議を実施しており、会議録もきちんと残されていた。7月に外部評価の件や夏祭り・1泊旅行について話し合う予定である。		

茨城県 グループホームいっしん館内原

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	中学生の職場体験の受け入れを行っている。生活保護受給者がおり、行政との連絡は密である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを月1回家族に送っている。また、面会時に状況報告をしたり、健康状態などに変化があった場合や必要な物があった時には、すぐに電話連絡をして対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、アンケートを実施したり積極的に意見をもらうようにしている。	○	家族が本音を言える場所の提供として、家族会の発足を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者や異動者も少ない。新人職員には、利用者とはコミュニケーションすることを重視し、なじみの関係になるまでは踏み込んだケアを行わないようにすることで、ダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時や段階に応じた研修を受講している。内部研修は、3ヶ月に1回行われている。研修報告は月1回、口頭で伝えている。	○	全職員が、質の向上に向けた情報を確実に共有できるように研修報告書の作成が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上にむけて、いっしん館グループの職員の交流がある。交換研修も行っている。日々行っていく中で、困ったことや分からないことは他のホームと連絡を取り合いながら行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と一緒に見学に来ていただいて食事を共にしたり、自宅に向いたりしている。体験入居の受け入れも可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理を教えてもらったり、お作法が出来ていないと叱られたりする等の場面があり、普段から利用者に対していただくという姿勢をもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	筆談やカードなどを用いて、一人ひとりの思いや意向を把握できるように努めている。利用者と職員の話し合いを多く設けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意見・家族の話を聞き、介護計画に反映できるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に応じた介護計画の見直しはされているが、経過記録など計画見直しに至るまでの状況把握がされにくい。	○	個人記録上で介護計画の実施内容や経過がわかるような記録方法や経過記録の導入などの取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が宿泊できる体制が整っている。法人内で移動美容室があるなど、独自に工夫されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する病院に受診できるようになっている。病院受診の送迎介助も行っている。ホームドクターの往診があり、医療機関との連絡体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意見を聞き、重度化や終末期に対する同意書を得ている。また、状態の変化に応じてその都度話し合いの機会を設けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録の保管等は徹底している。プライバシーに関わる事は別室を使用し、周りに聞こえないように配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出支援や買物・外食支援など、一人ひとりの意見を取り入れ希望に合った対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立作りを行ったり、外食や出前を取る機会を設けたりと支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に合わせての入浴支援を行っており、職員は利用者と1対1になれるので、入浴の時間を大切にしている。年に1回、他館と合同で温泉旅行へ行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を活かし、洗濯物たたみやごみ捨て・男性の方には車の掃除などの役割を持っていただき、張り合いのある生活が送れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩やドライブを行っている。天気の良い日には外で、お茶会をしたり、定期的に外食へ出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	拘束と安全の教育を行い、職員に啓発している。鍵をかけないケアを提供している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者を交えて、年2回避難訓練を行っている。夜間想定の実施も実施しており、近所のアパートに協力得られるように働きかけをしている。非常食などの備蓄をする計画がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に水分や食事量を記録している。献立については、栄養のバランスが摂れているかを栄養士が点検している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過度な装飾はなく居心地の良い空間が作られている。玄関にはその場所で一息つけるように椅子が設置してあったり、畳の場所があったりと工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子やテーブルなど、使い慣れた家具や生活用品を持ち込んで、個人個人の居室作りを行っている。		